

ニッポンハム食の未来財団 平成 30 年度第一期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	第 3 回 ふくおか食物アレルギー攻略法講座（講演会）
フリガナ	アベ タイスケ
申請者（代表者）氏名	安部 泰佑
団体名（正式名称）	団体名 : 福岡食物アレルギーネットワーク 役職・肩書など: 事務局長

1. 活動結果要約

アレルギー児をお持ちの患者及び保護者 28 人、園関係者 35 人、その他 2 名の合計 65 人が聴講。アレルギー指導医 1 人、専門医 2 人を講師として 入園/入学に際しての疑問や不安を抱えている保護者、園関係者に対し、アレルギーの発症の機序、各アレルゲン除去に関する代替品情報および注意点、負荷試験から解除までの説明、園/学校や家庭で注意すること、喘息の予防について、腸内環境整備等の食物アレルギーの最新情報をご講演いただいた。食物アレルギーに関する正確な情報、最新の情報がほしいとの要望もあり、今回もそれを満足させる内容であった。

また、エピペン器具を使つての使い方講習を行い、実際に手に触れてよかったとの評価をいただいた。

試食会については、米粉パン、米粉ケーキ、おやつ類、災害用缶詰等を試食いただき、代替食の存在を認識いただくことと災害時の代替食準備の啓発ができた。

さらに医師 3 名＋患者会会長が登壇し相談に対して答える相談会を実施し、多くの疑問や不安にその場で的確に答えることができ、参加者をクリアにすることができた。

2. 活動目的

1. 保護者に対し

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（経口負荷試験～除去食治療）になってもらう
- ・無理なく治療（負荷試験～除去食等）が楽しくできることがわかり、安心した状態になってもらう
- ・事故を防ぐために、やっておくことがわかった状態になってもらう
- ・保護者が、園/学校関係者と何の情報をすり合わせておくべきかがわかった状態になってもらい、ストレスなく誤食事故を0に近づける状態にする

2. 園関係者に対し

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（経口負荷試験～除去食治療）になってもらう
 - ・事故を防ぐために、やっておくことがわかった状態になってもらう
 - ・園関係者が、保護者と何の情報をすり合わせておくべきかがわかった状態になってもらう
 - ・アレルギー対応材料が豊富にあり、しかも味も普通食とそん色ないことを知ってもらい、さらに簡単に作成できることがわかり、園の日常に活かせる状態になってもらう
- これらにより、ストレスなく誤食事故を0に近づける状態にする

3. 活動方法

- ・当初の計画

平成 30 年 10 月のいずれか 1 日に 180 分程度

当会世話人の医師 2 人を講師として

対象は、福岡及び近郊の基本的にはじめて食物アレルギーと診断されたお子さまをお持ちの保護者および新しくスタッフなられた園関係者の合計 80 名に対し、食物アレルギーを正しく理解していただき、園、小学校での楽しい過ごし方及び対応方法を伝える。

* 参加費として 大人 1 人 1,000 円（こども無料） 託児費：1 人につき 500 円

・結果

平成 30 年 11 月 25 日（日）13：00～16：00 で実施＝講師の日程都合により 10 月→11 月に。

講師は、世話人から柴田瑠美子 MD、松田健太郎 MD、手塚純一郎 MD＝当初講師 2 人から 3 人へ変更。

対象参加者は、保護者および園関係者の合計 65 名参加＝80 名を予測していたが、体調不良等の理由により相次いでキャンセルとなり計画より少なかった。参加費を徴収する計画であったが、取れた会場のルール上、参加費徴収が不可であったため断念。

講演内容は、3MD 講演は計画通り実施済み。また、試食会は、災害時として代替品の存在と味を伝えることができた。3MD と患者会代表が登壇しての相談会は、活発に質問もいただき、疑問/不安にその場で答えることができ、クリアにすることができた。

4. 結果及び波及効果

【当初計画】

1. 保護者に対し

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（経口負荷試験～除去食治療）
 - ・無理なく治療（負荷試験～除去食等）が楽しくできることがわかり、安心した状態
 - ・事故を防ぐために、やっておくことがわかった状態
 - ・保護者が、園/学校関係者と何の情報をすり合わせておくべきかがわかった状態
- これらにより、ストレスなく事故を 0 に近づける状態にする

2. 園関係者に対し

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（経口負荷試験～除去食治療）
 - ・事故を防ぐために、やっておくことがわかった状態
 - ・園関係者が、保護者と何の情報をすり合わせておくべきかがわかった状態
 - ・アレルギー対応食が簡単に作成できることがわかり、園の日常に活かせる状態
- これらにより、ストレスなく事故を 0 に近づける状態にする

【結果】

1. 保護者に対し

柴田先生からは、食物アレルギーの基礎から最新の治療までの講演を丁寧に説明いただき、参加者には正しい知識を身につけていただき、代替食含む治療が無理なく楽しくできることがわかり、安心していただいた。また、園や学校で事故を防ぐために、やっておくことをご理解いただいた。アレルギー対応食試食では、実際の試食とレシピ集で簡単に作れておいしく食べることができることをご理解いただき、安心もしていただいた。エピペンを持っているが使ったことがない方々がほとんどであり、今回エピペン器具を使つての使い方講習で、実際に使うことができ緊急の時に活かせるとの評価であった。

2. 園関係者に対し

保護者同様、食物アレルギーの基礎から最新の治療までの講演を丁寧に説明いただき、参加者には正しい知識を身につけていただき、代替食含む治療が無理なく楽しくできることがわかり、安心していただいた。園での事故を防ぐために、日常でやっておくことをご理解いただいた。園関係者が、保護者と何の情報ですり合わせておくべきかをご理解いただいた。アレルギー対応食試食では、園での給食やおやつ対応として、実際の試食とレシピ集で、代替食をどうすればおいしく作れるかをご理解いただいた。

【考察】

- ・食物アレルギーの基本の話を理解してもらうため基礎編を用意、入園入学前の疑問や不安を解消することを目的としたが、大変わかりやすく有用であった旨のアンケート結果から 正確な情報と最新の情報を伝えることができ、疑問や不安を解消でき大成功であったと考える。
- ・エピペンの使い方講習は、第1回2回のアンケート結果から要望があったため実施したが、実際に器具を触った初めての方が多く、想像していたものと違っており器具の使い方をマスターできてよかったとの評価が多く、大成功であった。
- ・財団さんよりレシピ集をいただいております、試食と同時に配布した。保護者および園の調理担当者

から、どのように工夫して作ればよいかが明確になりよかったとのアンケート結果から、代替食作成に関しても不安を解消できた。

- ・反省点は、最後の相談会で活発に質問を受け付けたが、結構盛りだくさんで時間がおしてしまった。最後の方は、同席されていたお子さんがぐずりだし、退出される保護者の方も多く、質問と回答のファシリテートの仕方を考える必要があると考える。

5. 今後の活動について

- ・アンケート結果から、今回も食物アレルギーについて「正確な情報がほしい」「最新の情報がほしい」との要望が多かったため、今回のような食物アレルギーのキーオピニオンの MD に講演をいただいて、最新の情報として検査から治療、予防、事故時の対処までの情報発信を継続して行うことが重要と考える。

また、アレルギー対応食の試食も、「災害時」という観点から、家庭や園で準備していただくことを啓発することも重要と考える。

- ・正確な情報、最新の情報を園関係者、患者家族が認識することで、園関係者は、患児に対して給食等での対応、その保護者との意思疎通が正確に行え、さらに健常児へアレルギーを理解させることが行える。

また、患者家族は、自身の子どもを健全に成長させるための食生活を認識し、それをもって園、学校関係者へ、何が良くて何がダメなのか等を正確に伝えることができる。

- ・今後の活動として、常に新しく「食物アレルギー」と診断された保護者が出てくると、また、園でも新しく着任のスタッフがいることから、少なくとも年に1回講演会（試食会含む）を開催したい。

また、当会ホームページで講演会トピックスをはじめ、最新の情報をアップし、多くの方々に情報を提供する。

以上